

特集 長崎ぶらぶら節散策マップ

# ぶらぶら歩こうで。

愛ハの愛した情緒あふれる長崎の街。

な、愛ハ、おうち、おいといっしょに  
長崎の古か歌ば探してあるかんね

この言葉からこの物語が始まったといつて  
いいだろう。

なかにし礼原作の「長崎ぶらぶら節」。直  
木賞を受賞後すぐに映画化された。その実在  
した芸者愛ハが舞土史家古賀十三郎に対して  
はかなくも強い恋心を抱きながら、一所懸命  
長崎の古い歌を探し回る姿が、彼女の、時に  
男勝りで氣っふのいい人情味あふれる性格と  
相まって、多くの人に共感を呼んでいる。

長崎くんちでは、よく耳にしていたこの

「長崎ぶらぶら節」だが、今回その物語を説  
んで、そして見て、どこか心地よいテンポと  
歌詞で奏でられるあふれる長崎情緒に、改め  
て心惹かれ、関心を持った人も多いはずだ。

そこで今回、長崎市観光課の方で発行され  
た長崎ぶらぶら節散策マップに基づいて、在  
崎の東高同窓生数名がいち早く、この散策に  
乗り出した。

おうちもぶらぶら歩いてみてみんね。

長崎名物は長崎ばやし祭り

種は、長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

長崎ばやし祭り、長崎ばやし祭り

梅園裏門たたりてれ山

ぶらぶら歩こうで。

おうちもぶらぶら歩いてみてみんね。

# これが「噂」の「ぶらぶら節散策マップ」

今、散策が面白い。

ここから始まる幸せさがし、小説・映画の主人公芸者愛八さんも歩いた丸山あたり。芸に秀でて気っぶが良く、誰からも愛された。相撲が大好きでどんなに祝儀をもらっても貰しい人やひいきの力士にきらいさっぱり使ってしまった。六十歳で生涯を閉じたとき、部屋には電気もなかったという。遊びにいくなら、花月か、中の茶屋・・・ぶらぶら節に歌われたこのあたりを歩くと、そんな愛八さんが生きた時代の空気が、今もどこかに流れてる。ふとそんな気分になってくる。

ぶらぶら節散策マップ



「其の一」

「其の二」

マップに基づいてこの足形サインが地面に印されている。



お問い合わせ先:

長崎市桜町4-1 長崎商工会館4階  
長崎市観光宣伝課 TEL 095)829-1314  
長崎市観光振興課 TEL 095)829-1152

▼今回はこの散策マップ「其の一」に基づいて、散策がおこなわれた。

地図では今ひとつ距離感が掴みにくい。例えば③愛八さんの墓から⑤中の茶屋までは歩いて10分～15分ぐらい。そこには長峙らしい生活感を感じる狭い坂道が続いて、文字どおりぶらぶら歩くにはちょうどいい距離だ。始めて歩く道なのに何故かどこか懐かしい郷愁を覚えずにはられない。

**①ピントコ坂**  
丸山町最上の一帯で、唐人屋敷(おひんた)と丸山のゆるやかな坂道が連続して伸び、ピントコ坂と呼ばれている。ピントコ坂は、ピントコ坂と呼ばれている。ピントコ坂は、ピントコ坂と呼ばれている。

**②愛八さんの墓**  
芸者愛八さんの墓。長崎市の丸山町にあり、長崎市の丸山町にあり、長崎市の丸山町にあり。

**③高島神社(国指定史跡)**  
高島神社の境内。高島神社の境内にあり、高島神社の境内にあり。

**④茂木山道**  
茂木山道の風景。茂木山道の風景にあり、茂木山道の風景にあり。

**⑤丸山公園**  
丸山公園の風景。丸山公園の風景にあり、丸山公園の風景にあり。

「丸山町」として知られる丸山町は、長崎市の丸山町にあり、長崎市の丸山町にあり。

**⑥中の茶屋(市指定史跡)**  
中の茶屋の風景。中の茶屋の風景にあり、中の茶屋の風景にあり。

**⑦後藤寺代り文楽堂**  
後藤寺代り文楽堂の風景。後藤寺代り文楽堂の風景にあり、後藤寺代り文楽堂の風景にあり。

**⑧長崎城**  
長崎城の風景。長崎城の風景にあり、長崎城の風景にあり。

**⑨江戸(国指定史跡)**  
江戸の風景。江戸の風景にあり、江戸の風景にあり。

**⑩丸山公園**  
丸山公園の風景。丸山公園の風景にあり、丸山公園の風景にあり。

**⑪山の日丸山二重門跡**  
山の日丸山二重門跡の風景。山の日丸山二重門跡の風景にあり、山の日丸山二重門跡の風景にあり。

**⑫長崎城**  
長崎城の風景。長崎城の風景にあり、長崎城の風景にあり。

**⑬長崎城**  
長崎城の風景。長崎城の風景にあり、長崎城の風景にあり。

**⑭長崎城**  
長崎城の風景。長崎城の風景にあり、長崎城の風景にあり。

**⑮長崎城**  
長崎城の風景。長崎城の風景にあり、長崎城の風景にあり。

今回の使命に熱く(?)燃える  
ぶらぶら散策隊  
～隊員紹介～

DATE:  
10月29日(日)  
くもり時々晴れ



▲ 田中 英明 (31回生)

商工会議所勤務。ブラバン出身。

長崎から一度も出たことがない私ですが、初めて訪れた場所が多く、「長崎のことは長崎に住む者が一番知らないのではないか」と少しばかり反省させられる結果となりました。しかし、今回観光客の視点で散策できた事は、今後の長崎の観光地のあり方を考えるためのヒントを得たような気がします。今後も長崎の活性化になんらかのお手伝いができるよう頑張りますので、遠くの皆様方にも郷土長崎の発展のため、引き続きお力添えを賜りますようお願いいたします。



▲ 馬場 泉 (45回生)

今回最年少。長崎市職員。理化部出身。

まわりから見たらきっと妙な集団で、半日歌さがしの小旅行に行ってきました。身近なところでも、逆に身近であるだけに訪れることもなく意外な発見も多くありました。愛八さんのお墓もお参りする事ができ、小説の世界がぐっと身近になったような気がします。



◀ 鹿川 恵一 (30回生)

住職。ブラバン出身。

「ぶらぶら節」の小説・映画のヒットで、観光地長崎としては、大いに喜ばしいことです。私は「愛八」さんのことも全く知りませんでしたし、歌の「ぶらぶら節」についても今回初めて勉強させていただきました。今回私たち「ぶらぶら散策隊」は皆で愛八さんの墓にお参りできて意味がある事だと感じました。

西村 香年子 (32回生) ▶

内外装その他のデザイナー。弓道部→美術部出身。

今回「東風」編集部よりいきなりの指命を受け、動揺しつつも持ち前のノリの良さで「ぶらぶら散策隊」を急ぎょ結成。なんせ、映画ロケのエキストラ隊でもある訳ですから、参加せん訳にはいかんですよ。愛八さんの気っぶの良さは見習わねば！秋風に吹かれて歩く吉長崎はなかなか風情のあるものでした。



中村 伸司 (30回生) ▶

長崎県職員。理化部出身。

長崎に住んでいても訪れたことがない所ばかりで、任務も忘れ、私自身が楽しみ、感動する散策となりました。特に「花月」では、「春雨の間」に入れて頂き感動しました。その時の写真からこの感動が皆さんに伝わるとういのですが、今回は客として行きたかです。愛八さんのお墓からは立山の東高校舎を見る事ができました。実は3年時の体育祭で全員浴衣でぶらぶら節を踊りました。もしかしたら20余年前のへたくそな踊りを愛八さんはこの地から苦笑いして見てたかな、そんな縁を感じた散策でした。



◀ 川浪 かおる (32回生)

金融機関勤務。弓道部出身。

日頃は時間に追われ、せかせかした気持ちであの中小島あたりを軽自動車でも走り回っていた私。そのちょっと辻裏にさり気なくあったぶらぶら散策コースの足跡(目じるし)は、運動不足の私に後押しをしてくれました。和尚さん(鹿川さん)の読むお経と一緒に吹いてきた東風が私たちに静かに挨拶してくれました。

# 花月

かげつ

CLOSE UP!

## 史跡料亭「花月」 そこには今なお長崎の歴史が息づいている。

花月の敷地は、丸山町・寄合町・中小島町の三か町におよび当時家運の隆盛と共に広げられ、そこに家屋が新築されるたび、世間から賞賛されたと伝えられています。

花月は、もとは引田屋 ひきたや といひその庭園にあつた亭 ちん を花月楼といつたのですが、大方清雅の愛顧により紀崎陽随一の酒樓と喧伝されるに及び、遂にはこの名を採つて店名としました。

開業は三百五十有余年の昔になります。 当時オランダ人や唐人達の丸山見物の際には、必ず花月に立ち寄つたそうです。それだけに抱え遊女のうちには、袖咲、と江芸閣絲萩と楊啓堂、其兩とシーボルトなど海の彼方の人々との艶はなしを残しています。

また文人墨客の訪れも多く、頼山陽、武元登々庵、田能村竹田、古賀穀堂、細川星巖、中島宗野田、菅浦、鴨茂秀隆などがあり、この人たちは花月において、当時の珍奇な風物を賞し、長崎独特の風流を愛でたのです。頼山陽は花月の別称を「養花山館」と名付けてい

けていました。そのほか鶴の枕、白虎の玉、餅の花の太鼓などの珍宝がありましたが、いつしか家にとどまらなくなり第十一代当主山口太左衛門のときに、鶴の枕だけを再び手に入れ、爾來花月を鶴の枕の家 といつたのです。そして 屋山人大田南畝 が 鶴の枕の記 を書いています。

幕末には、明治維新の志士達が花月に入りしめた。大広間の床柱に残る刀痕は、松本良順と共に遊びに来た坂本竜馬が残したものだと言われている。英人 水兵 が暗殺された当夜、海援隊が花月に遊び賞兵衛が暗殺の嫌疑を受けたのです。そこで竜馬

が、長崎奉行に苦情書を差し出したのです。その下書きは掛軸にして現在も残っております。

文政八年 一八二五 には、文人墨客、藩士の文士、来船唐人らを集め、大会を開いて、長崎書画清談会 の組織ができ、毎年春秋に書画会が催されました。これが日本における美術展の始まりといわれています。

端唄春雨 一八四六年作 の作者が柴田花守、節符したのが丸山の女であることは、哥沢能六齋が伝えていきます。花守は肥前小城の藩士で、長崎港の繁栄のためこちらに来ていたのですが、花月の風情を詠んだ春雨は端唄の代表曲とも言われています。

芭蕉十哲のひとつといわれる向井去來は長崎の人で、去來が丸山で詠んだ  
いなづまや どのけいせいと  
かりまくら  
の句碑が入口の右側に立っています。

昭和三十五年三月二十二日より長崎県文化財の指定を受けてその伝統を守り受け継いでおります。

文政八年 花月のしおりより



▲1階奥に位置する「春雨の間」

見事な庭園を望める「春雨の間」は和室と日本で初の洋間の二間続き。幾何学模様のタイル（当時はタイルという言葉が無く、「瓦の間」と呼ばれた）

貼りの床に床の間、床柱、手ふきガラスのガラス窓。四季折々の花々を色鮮やかに描いた天井絵。当時の長崎で作られたと思われる素朴な家具。部屋の中央には真鍮の飾りの付いたランプが下がっている。和洋折衷何でもござれのしっぽく料理をそのまま建物にしたようなこの部屋にいるとまるで絵の中にあるよう。心地良い。長崎古坂園に描かれた阿蘭陀人の食卓風景にタイムスリップしたようだ。確かにここでは時間が止まった。



◀今回案内をして下さった加藤貴行さんは女将の息子さん。



◀ 玄関右横にかけられている写真と木版画

玄関から入ってまず最初に目につくのは、江戸末期に長崎で作られた6枚組の多色木版画だ。歌川貞秀の「肥前崎玉浦景図」「肥前長崎丸山郭中乃風景」。郭中乃風景は「長崎ぶらぶら節」の本の表紙とCのジャケットにモノクロで使われている。当時の栄華を極めた丸山の様子が克明に描かれていてとても興味深い。写真は左から、高杉晋作、坂本龍馬、岩崎弥太郎。



▲ 美しい幾何学模様様の「春雨の間」の床

気のせいさ。  
ぞいより今度は  
ぜえったいこの部屋  
で昼飯食べて。

ねえー、  
なんが私たちさ、  
舞臺人になっただご  
るねえー！



◀ 2階旧館から新館への渡り廊下

写真右手奥にある襖を開けると坂本龍馬がつけたといわれる刀痕のある大広間がある。

▼ 当時のままの釘を全く使っていない床



黒光りして継ぎ目が擦り減った床は350年の歴史の重みを感じさせてくれる。でも女性はストッキングに要注意！それと当時のままの階段もとても急なので気をつけて。

2階の資料館は当時の花月を再現した模型や長崎青貝の螺鈿細工、龜山焼き、古貨人形、月琴などの楽器類、貴重な書画、掛軸など当時の丸山・花月の繁栄がいかばかりかと思わせる品の数々が展示されている。目もくらむばかりの町文化の夢の跡。ここは長崎でも夢の世界。桃源郷だったのでは？

そんな往年の美術工芸品に並んで坂本龍馬の木像があり、その隣には愛八さんと妹さんの写真も並んで展示してある。どことなく愛八さんの姿が寂しげに映っていたのは気のせいなのか、古賀十二郎先生と並べてあげたかったなあ。

▼ 新館2階に位置する資料館



▼ 熱心に貴重な資料、作品に見入る隊員たち



史跡料亭「花月」

お昼の会席・卓袱料理は 8,000円(サ・税別)～。  
お昼の「花蒸」松花堂弁当は  
平日のみ(土、日、祭日除く)で 5,200円。  
夜の会席・卓袱料理は 11,000円(サ・税別)～。

いづれも要予約。 予約TEL (095) 822-0191

# 中の茶屋

なかのちやや

CLOSE UP!



## ▲ 中の茶屋入口の門

花月の裏手側へ向かうひっそりとしたなだらかな路地の坂道を登るとまずは梅園身代り天満宮が見える。そのすぐ上に位置するのが市指定史跡「中の茶屋」だ。

丸山の遊女屋筑後屋が、茶屋を設けていたところで、中の茶屋と呼ばれ、また、千代の宿とも呼ばれる。内外の文人墨客が好んで遊び親しんだ。長崎奉行の市中巡検の時には、その休憩所にあてられることもあった。

遊びに行くなら 花月か 中の茶屋

ぶらぶら節二番の歌詞に出てくるここは花月と共に必見だ。当時の華やかさは対照的な素朴な落ち着きを感じてしまう。何やら心が和む場所である。

建物は、昭和46年、隣家の火災で焼失したので、51年になるべく旧態に近く新築復元され、利用者の便を考慮して奥に茶室が付加された。

この日は日曜日で、庭園ならびに屋内もすべて開放してあったが、閉まっている日もあるので、観光課などで確認して出かけるとうい。



## ▼ 中の茶屋の庭園

江戸中期に築かれた庭園は市内では希少なもの。庭園内のお稲荷さんは秀亮繁昌のご利益があると言われている。

筑後屋の抱え遊女「富勢」が奉納した手水鉢が今も残っている。



ま、待つてえ。

は、はい。

このあたりは曹先は  
繡花がきれいで・・・  
西崎港も見下ろせて・・・  
さっ、早よ、ついて来て!

あゝもう、仕事から  
ぞんまん来だけん、  
資料のごちゃごちゃ  
なつとる・・・  
どっこいしょ。



## ▼ 長崎検番前

# 長崎検番

ながさきけんばん

CLOSE UP!



アーク、山崎。  
私、町検?!

昔の長崎東検番で、町中検番(町検)に対して、山検と呼ぶ。

小説・映画にもあったように双方はほんとに仲が悪かったのかな?

きらびやかな中に女の艶笑と姉妹が交錯するシーンはそのキャスティングと衣装、舞台背景と相まって、秘かに見ものだった。

その後、このふたつは統合され、長崎芸能会となり、長崎検番となっているが、現在は18名。最近では「ぶらぶら節」と「浜節」を踊る機会が増えたそう。古い表札と静かな佇まいだった。

## ▼ 中の茶屋座敷



## 梅園身代り天満宮

うめぞのみがわりてんまんぐら

CLOSE UP!

やつぱし、ちゃんと  
狛犬さまにお願い  
せーんば・・・  
ナデ、ナデ～。



愛八さんもよく参拝していた仲かりの神社。小じんまりした敷地と小さな鳥居は、参拝者を暖かく迎えてくれる。どこか親しみを覚える天神さまだ。

ばってん、引いたおみくじには、待ち人来るたよりなしの文字が・・・・ガアーン、やつぱし身代りお願いして帰ろっ！

・・・うん、  
魔よけくらいには  
なるじゃろ～！

### ▼天満宮の小さな鳥居

元禄13（1700）年創建の丸山町の氏神さまで、昔から「身代り天神」と呼ばれている。人々の身体の悩みから心の悩みまで身代りになって助けられるとされている。

どう？可愛が  
狛犬でしょ？！  
ご利益ありそう  
やろ～。



## 愛八さんの墓

あい八さんのはか

CLOSE UP!

今回の小説と映画のヒットで、にわかに脚光を浴びて、一番驚いているのは何を隠そう愛八さん本人に違いない。もし、今彼女と話が出来たなら、彼女は喜んでくれているのか、それとも恥ずかしがって苦笑しているのだろうか、いや、あるいはそっとしておいてくれて少々ご立腹ではないだろうか・・・ちょっと聞いてみたいくなる。

何はともあれ、この小説・映画のおかげで多くの人が、中でもここ長崎に仲かりのある人はなおのこと、愛八さんについてその性格、生きざまに興味を持って、何やら親近感を覚えてしまっているのは大きな事実なのだ。

ホームページなどでも楽しい企画があって嬉しいのだが、この「愛八さんの墓」の写真が掲載されているのは少し考えもの、一步間違えると、お墓までもが単に観光地化されかねない。

あくまでも「お墓」は手を合わせる場所であって、観光見物する場所ではないということに気をつけて欲しい。

事実、今回私たち欧米部隊は、唐川住環の統経で全員静かに手を合わせ、遠き日の愛八さんを偲び、思い遣ることができた。その墓をあとにするとき、どこかすがすがしい心が洗われた気持ちになれた。本当に来てよかった、愛八さん、ありがとう。

### ▼愛八さんの墓前にて

正面には立山の東高校舎が見えている。



ひとつ感心して、嬉しく思ったのは、愛八さんのお墓近くにあったゴミステーションが、自治会の配慮で別の場所に移されていたこと。

たくさんの方がお参りに来られるようになって、美観のためにとのことだが、その好意を大切にしたいものだ。





おまけ

映画「長崎ぶらぶら節」長崎ロケ日誌  
ぶらぶらエキストラ隊は行く。

今年6月10日(土)この日、諏訪神社付近は早朝から異様な光景に包まれた。大正から昭和初期を意識した衣装に身を包み、映画「長崎ぶらぶら節」のくちろケに参加すべく集った長崎市民は約800人。唐人船、本踊り、籠踊り、コッコデショの出し物と共に撮影は午後4頃まで続けられた。天気はくもりから終盤は小雨模様だったが、主役の渡哲也さん、吉永小百合さんをはじめスタッフ全員の撮影の舞台裏を垣間見れた喜びを感じた。



▲ 撮影休憩中の長坂

当時、長坂が女人禁制だったとは知らんやった。よかねえ、男の人は〜。女性は両脇の土手が、踊り馬場に陣取った。去ろうとする小百合さんに熱い「モッテコーイ！」が長坂から。



小百合さんの出番は、本踊りのうしろで石だたみに正座して三味線を弾くシーン。三味線の腕前もなかなかのもの。あたりの目は一心に小百合さんに注がれた。

やっぱり小百合さんは美しい。  
その存在だけであたりがパツと明るくなりました。

▼ コッコデショ

撮影も「コッコデショ」を迎えてクライマックスに。小雨の中の熱演に本番さながらの大声援がとんでいた。



▲ ぶらぶらエキストラ隊の面々

左から渋谷晃(32回)、西村香年子(32回)、高比良利率(25回)、川浪かおる(32回)、田中英明(31回)。みんな、のぼせもんやねえ〜。